

書名 項目	新編 新しい国語	2 東 書
教育基本法、 学校教育法の 下、学習指導 要領の教科の 目標とのかか わり	<p>○本編、基礎編、資料編の3部構成で、基礎編、資料編では、本編の学びを深める内容が配列されている。</p> <p>○言葉の力をつけるために、多彩な言語活動を重視し、社会生活で必要な力を習得して活用できるよう、系統的に教材が配列されている。</p> <p>○四季に関する表現や生活に根ざした歳時記を積極的に取り上げ、伝統文化に親しみ先人の教えから学ぶ態度を育てるよう、教材が配列されている。</p>	
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「言葉の力」では、学年ごとに習得と活用を繰り返しながら、3年間で系統的に基本的な知識、力が積み上がるように配列されている。</p> <p>○教材ごとに基本的な学習用語を確認、整理できるページが設けられている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「学びの扉」「学びを支える言葉の力」では、各領域に共通して必要となる「言葉の力」を鍛えるよう、学習で身につけた力を活かすことができる演習が組み込まれている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭折り込みに学習の見通しを持たせるための教科書の使い方があり、自主学习でも生徒自身が身に付けるべき学習のポイントが示してある。</p> <p>○1年間の学習の流れが教材名とともに図式化されている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○文法教材は、ゲーム感覚で学べる「文法の窓」と文法事項が整理されている基礎編「文法解説」で構成されており、練習問題により文法の定着が図れるようにされている。</p> <p>○巻頭「四季を楽しむ言葉」で、写真も参考にしながら四季を楽しむ暮らしと言葉に関心が持てるようにされている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○各学年とも「読書」の学習教材に読書案内が施され、テーマ別や名作紹介など生徒の多様な興味に応じられるように配慮されている。</p> <p>○1年の古典の学習では「古典の世界」という特殊教材があり、古典学習の導入に工夫が見られる。</p> <p>○1年の段階で「著作権と引用」について解説し、著作者の権利について意識させている。</p>	
色	<p>○巻頭の折り込みに、国語学習の意義と進め方や1年間の見通しが示されている。</p> <p>○キャラクターが効果的に用いられていたり、文法学習ではゲーム感覚で学習できるようになっていたりして、学習意欲を高める工夫がされている。</p> <p>○「読書案内」では、読んでみたいという関心させるための簡単なあらすじが掲載されている。</p>	
資 料	<p>○活字が見やすく重要な部分の認識がしやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲み、色使いが工夫されている。</p> <p>○小学校で学習していない漢字には、ふり仮名が振られ、生徒の抵抗感がないようにされている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○全学年7つの単元と「基礎編」「資料編」で構成されており、「読むこと」では、「読み取る」「考えを深める」の2段階の学習課題を示している。それぞれの教材で身に付けさせたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示して、3年間で系統的に積み上げさせるようにしている。「学びの扉」で学習した後、「学びを支える言葉の力」で国語学習の基礎を学べるようになっている。</p>	
総 括	<p>○全学年7つの単元と「基礎編」「資料編」で構成されており、「読むこと」では、「読み取る」「考えを深める」の2段階の学習課題を示している。それぞれの教材で身に付けさせたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示して、3年間で系統的に積み上げさせるようにしている。「学びの扉」で学習した後、「学びを支える言葉の力」で国語学習の基礎を学べるようになっている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">中学校国語</p> <p style="text-align: right;">11 学 図</p>	
<p>教育基本法、 学校教育法の下、 学習指導要領の教科の 目標とのかかわり</p>	<p>○本編は「絆」「生命」「群像」「伝統」「世界」の5つの単元で構成されており、それぞれに親しみやすい課題に取り組むことで、各指導事項が習得できるよう工夫されている。</p> <p>○各学年の目標・内容が漏れなく指導できるように、課題の発見、解決するための体系的な学習や学習の振り返り、実際の言語生活へのフィードバックという一連の学習の流れが確保されている。</p> <p>○古典の世界をより深く味わうためのコラムや、扉ごとに紹介されている詩歌などをおおして、伝統的な言語文化に対する関心や認識を深めさせるよう工夫されている。</p>	
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「読むこと」で学習の仕方や身に付けたい力がチェックできるように「学びの窓」や「ついた力を確かめよう」のコーナーが設けられ、わかりやすい設問で構成されている。</p> <p>○「漢字を見抜く」では漢字の基本的な成り立ちから歴史などを説明し、例も多様である。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「発見する読み」では物語を読み進めるヒントが書かれ、視点を変えて思考力を深めようとしている。</p> <p>○教材ごとの確認問題に解答スペースがあり、生徒が解答しやすくなっている。</p> <p>○「活動を考える」では話を聞いた後、話すポイントを決めて演習へとつなげている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「学びの窓」では「読む前に」「読み深める」「まとめ」の順で学習を進め、最後に自己評価の流れで構成されており、自主的な学習が取り組みやすくなっている。</p> <p>○教材の下段に目標が明記され、身に付ける力がチェックしやすいようになっている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○単元扉に短い詩を載せて、声に出そうと意欲付けをしている。</p> <p>○漢字や古典学習に力を入れている。漢字は段階を踏んで学習できる構成となっている。</p> <p>○現在活躍している作家の作品を多く起用し、現代的な言語感覚を磨くようにしている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○共通のテーマで単元設定がされており、テーマを意識して学習に臨むことで、系統的な力が身に付くよう工夫されている。</p> <p>○古典の言葉や生活に興味・関心や理解を深めるために、語釈や古方位等の解説がある。</p> <p>○教材の最後に「読書を広げるために」という本の紹介コーナーがある。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○全学年で日本の文学史年表や、文法活用表があり、確認しやすい工夫がなされている。</p> <p>○色調が落ち着いており、言葉とともに内容の理解やイメージ・思考を深めさせる口絵や挿絵が用いられている。</p> <p>○各領域の色を統一し、今何を学んでいるのかわかるように整理された、シンプルな表記がなされている。</p> <p>○巻頭では、小学校で学んだ作品を例に挙げ、中学校への接続に配慮されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○脚注では、語句の意味や対義語が説明されている。絵や図を使っている部分もある。</p> <p>○中1・2年では、脚注に新出漢字だけでなく、小6で学んだ漢字も示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○全学年5つの共通したテーマ別の単元と「言葉の学習」で構成されており、学年が進むごとに掘り下げた内容となっている。「学びの窓」では、「読む前に」「読み深める」「まとめ」の3段階の学習課題を示して教科書に書き込める欄を設けており、「ついた力を確かめよう」では各自の学習の成果を確認する設定になっている。学習者に応じた学習活動が可能となるように、各単元に活動の選択が可能な教材が設けられている。</p>	

